



校長講話

校長 長谷川 豊

朝、玄関で子どもたちと挨拶を交わしていると、二人の女の子が私を見えています。声を掛けようかとも思ったのですが待ってみることにしました。私の所に駆け寄って来て、遠慮気味に小声で聞いてきました。

「校長先生も全校朝会のお話のネタ本を持っているんですか？」

NHKの雑学バラエティ番組「チョコちゃんに叱られる」で、「校長先生の話はなぜ長い？」が放送されました（私は見ていないのですが）。教育評論家の尾木ママこと尾木直樹さんがこう回答していたそうです。

校長先生の話が長い理由は「校長講話集」というネタ本があるからで、全国の校長先生の7～8割が使っている。ネタ本の内容に加えて、学校の実際の事例や自分の個人的に話したい内容を入れるので長くなる…。

二人の女の子もこの番組を見て、聞いてみたいと思ったそうです。でも、「悪いかな…、失礼かな…」と躊躇してしまったようです。賢くわきまえのある女の子です。

何人かの子どもに「覚えてる話は？」と尋ねてみました。「チンパンジーの話」「ゾウとキリンの話」「アンパンマンの話」と動物や身近な話題を挙げる子どもが多い中、「孔子とキリストの話」がよかったと言ってくれる子どもがいて嬉しくなりました。

「孔子とキリストの話」は、私が子どもたちに伝えたいことナンバーワンです。

2500年前の人です。孔子と言います。この人はこう言いました。

「己の欲せざるところを人に施すことなかれ」

自分がしてほしくないことは人にしてはいけませんという意味です。自分がしてほしくないことは、どんなことですか。それを友達にしてはいけません。

2000年前の人です。イエス・キリストと言います。この人はこう言いました。

「汝の欲するところを人に施せ」

自分がしてほしいことを人にもしてやりましょうという意味です。自分がしてほしいことは、どんなことですか。それを友達にしてやりましょう。

自分がしてほしくないことは人にはしない。自分がしてほしいことを人にしてあげる。この2つができる子どもになってください。

私も校長になったとき、書店で「校長講話集」を手に入りました。大切なことが書かれてはいるものの、やや難しく、実につまらないのです。1～2年生の子どもには使えないと思いました。作家の井上ひさしさんは、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」という言葉を残しています。近づきたいと思います。

全校朝会は、校長が子どもたちに語りかける貴重な機会です。私にとって3分1本勝負の授業です。言葉は心の表出です。子どもの心に響き、心の栄養になる講話ができるように、自分の心を磨いていきます。